

協働型登山道維持管理アンケート結果集計（生データ）

- 目的：協働型による登山道維持管理の今後の為に山岳関係者へ依頼したもの
- 配布：大雪山国立公園山岳関係者（行政機関、山岳団体、山岳ガイドなど）
- 集計日：平成24年11月28日（水）
- 回答率：52人中27人（51.9%） 上川管内19人 十勝管内6人 その他2人

属性

（所属）

- 山岳団体 5人
- 山岳ガイド 7人
- 行政機関 11人
- その他 4人

（年齢）

- 20代 3人
- 30代 7人
- 40代 6人
- 50代 4人
- 60代 6人
- 70代以上 1人

（男女別）

- 男 26人
- 女 1人

■質問②「協働で取り組む対象としてはどのような施設が適切と思いますか？」

- ・登山道 22人
- ・携帯トイレ 9人
- ・避難小屋 14人
- ・標識 17人
- ・その他 2人 ※情報共有や対処、トイレ

■質問③「具体的にどのような関与が考えられますか？」回答数 26

- ・標識のペンキ塗り（40代 山岳ガイド）
- ・英語表記プレートやラミネート（30代その他、40代山岳ガイド）
- ・避難小屋のゴミおろし（40代山岳ガイド）
- ・遭難防止の為に標識設置（30代行政機関）
- ・定期的なパトロール及び情報の共有化（30代行政機関）
- ・公的機関への協力と情報共有（60代山岳団体）
- ・遭難箇所、数、クレーム、情報提供などの統計を取り、市町村の境なく対応にあたる（30代行政機関）
- ・登山道の整備 ※なるべく人の多い方が良いので（40代山岳ガイド）
- ・標識設置の手伝い ※要、不要も含め、どこにどの標識があるとより効果的か色々な視点の人で協議したらよいのでは？（40代山岳ガイド）
- ・携帯トイレの利用の呼びかけ（40代山岳ガイド）
- ・登山道、避難小屋の異常箇所の情報共有、携帯トイレの普及啓発（50代山岳ガイド）
- ・標識の点検、新設、更新（50代山岳ガイド）
- ・登山道の修復、整備（ササ、松）（50代山岳ガイド）
- ・避難小屋清掃業務委託（20代行政機関）

- ・登山道→一般登山者も修復に参加できるような仕組みを作る
小屋→トイレの掃除やメンテナンス（50代山岳ガイド）
- ・裾合平の木道の維持管理（30代行政機関）
- ・作業内容によります（60代山岳ガイド）
- ・登山道→管理者、事業執行者の施工になじまない（工事ではない）軽易な維持、補修
携帯トイレ、小屋、標識→行政機関が主導して進めるべき（60代山岳団体）
- ・十勝岳及び沼の原線の草刈については、新得町とのかかわりもあり、予算が許されれば実行可能である（40代行政機関）
- ・歩道（登山道）の簡易な補修（30代行政機関）
- ・将来的に必要な補修などの計画（40代その他）
- ・GSSによる歩道の簡易な補修（30代行政機関）
- ・ガイドの仕事中はガイド業に集中するので、たまにプライベートで山を歩くときに登山道や避難小屋・標識などのちょっとした修理ならできると思います（60代山岳ガイド）
- ・登山道→補修作業への参加、メンテナンス、補修資材の搬送
避難小屋→清掃、簡易な施設維持管理作業、補修
標識→補修、メンテナンス、ペイント作業（60代山岳団体）
- ・登山道の整備、整備方法の指導（30代その他）
- ・白雲避難小屋（60代山岳団体）

■質問④「あなたが協働で取り組んでいただけることは何ですか？」回答数 34

- ・作業への参加（20代行政機関×2、30代その他、40代山岳ガイド×3、60代山岳団体×5、50代山岳ガイド×2、30代行政機関、40代その他）14名
- ・ツアーへの組み込み（40代山岳ガイド）
- ・標識や印の設置（30代行政機関）
- ・年数回のパトロール（30代行政機関）
- ・作業への呼びかけ、コーディネート（30代その他、20代行政機関、50代山岳ガイド×2、40代その他、60代山岳団体×2）7名
- ・情報提供（20代行政機関）
- ・スケジュールが合えば整備、協議、呼びかけ、なんでも（40代山岳ガイド）
- ・費用負担（20代行政機関）
- ・私共山岳ガイドは利用者であり、登山道整備などに関与することは基本的にはない、しかしながら要請があれば労働力などの提供は可能です。ご相談ください（40代山岳ガイド）
- ・作業中の視察の呼びかけ（70代その他）
- ・直接的な関与は難しいが、出来る限りの協力はしていきたい（30代行政機関）
- ・GSSによる歩道の簡易な補修（30代行政機関）
- ・ガイド業優先なので、仕事の無い日に天気が良ければ山に行ってみようかといった程度なので、事前に予定を立てて参加するとまでは考えていません。（60代山岳ガイド）
- ・登山道の整備、整備方法の指導（30代その他）

■質問⑤「協働による関与を推進するためには何が必要と思いますか？」回答数 26

- ・作業の簡素化（40代山岳ガイド）
- ・情報の共有化に掛かる連絡体制の確立（30代行政機関）
- ・共通の目標（30代その他）
- ・山岳会員と機関の連携を密にすること（60代山岳団体）
- ・関係者からの理解、親睦（20代行政機関）
- ・業務報告書類の簡素化（20代行政機関）
- ・山岳エリアにより状況が違うので、小さなグループ分け。大雪山国立公園全体としての考え方、大枠を決め、協働の具体策はグループごとに行動して詰めていく。その後、各グループの活動報告の共有など。（40代山岳ガイド）
- ・資金

- ・岡崎さんへの協力と十分な資金援助、佐藤文彦さんグループへの十分な資金援助（やる気のある人たちへの援助）（50代山岳ガイド）
- ・指導者の育成、一般登山者の参加（50代山岳ガイド）
- ・若年者が参加しやすいような新団体の設立、参加者の免税措置（30代行政機関）
- ・技術者の指導と適切な予算（量と配分）（40代山岳ガイド）
- ・国立公園管理者のリーダーシップ
- ・関係自治体の山岳自然環境保全に対する理解
- ・山岳関係者間の情報交換と情報共有
- ・利用者による情報公開とPR（60代山岳団体）
- ・維持管理する主体が明確でなく、予算措置が各団体難しいと思われる。登山道の維持管理を考える際には、最終的には誰が管理責任を持っているのかを考える必要があるのではないか？（40代行政機関）
- ・情報の共有化、責任のある作業（30代行政機関）
- ・とにかく継続する事（40代その他）
- ・情報共有（30代行政機関）
- ・事前に作業の予定をビジターセンターやロープウェイ乗り場に張り出しておく、この日なら参加出来るぞうだなという事になるのでは。（60代山岳ガイド）
- ・明確な役割分担
- ・意思疎通
- ・全体的調和（統一的な施工）（60代山岳団体）
- ・山岳関係者の活動内容や日程などの情報を共有し、各関係者型の活動にも参加しやすいようにする。一緒に活動することで横のつながりが出来る。（30代その他）
- ・年一回位宿泊研修会の開催（60代山岳団体）

■質問⑥「保全技術講習会について」

- ・とても良い 4人 具体的であった、実施作業も行って欲しかった（50代山岳ガイド）
 実際の現場での講習は大変役に立つ、岡崎氏の指導もわかりやすい（60代山岳ガイド）
 専門家による具体的な指導（60代山岳団体）
 現場に即した対応を理解することが出来る（60代山岳団体）
- ・良い 3人
- ・普通 1人 回数が少なく参加人数が多い
- ・悪い 0人
- ・とても悪い 0人

■質問⑦「今後も参加しますか？」

- ・参加したい 14人
- ・参加しない 2人
- ・どちらでもない 1人

■質問⑧「登山道の維持管理で重要と思う事は何ですか？」回答数 24

- ・組織の肩書のない友好関係（20代行政機関）
- ・気軽に参加出来る事（40代山岳ガイド）
- ・誰でも作業が出来る事（40代山岳ガイド）
- ・継続と「あるべき姿」（ぶれないこと）の共有（30代その他）
- ・定期的な巡視体制の強化（60代山岳団体）
- ・施設（特に木道）の腐食などによる登山者の事故を起こさないことや、遭難事故を起こさないためのルート表示（30代行政機関）
- ・登山道の整備、保全。情報の共有（20代行政機関）
- ・保護と利用のバランス（40代山岳ガイド）
- ・技術と資金（50代山岳ガイド）

- ・ 予算、若い登山者の教育（50代山岳ガイド）
- ・ 広域での調査と優先順位、確かな技術者の指導と適切な予算（量と配分）（40代山岳ガイド）
- ・ その場所の自然環境・景観を損ねないような修繕と長期的な計画での維持管理（30代行政機関）
- ・ 近自然工法と言っている工法がそうでない場合有。環境に合わせた近自然工法の理解が必要（70代その他）
- ・ 登山者への意識の啓蒙も必要ですが、常時大雨・雪融けによる登山道の荒廃箇所は抜本的な改修が必要と思います（60代山岳ガイド）
- ・ 利用者に対する適切なレクチャー
- ・ 登山道の維持管理に多大な費用と人手を要していることを知ってもらう
- ・ 山楽舎が行っているツアー形式が広がって欲しい（60代山岳団体）
- ・ 登山者の遭難リスクの軽減など（50代山岳団体）
- ・ 現在の維持管理というのは管理責任でなく善意のような形によるものであり、これらを踏まえたうえでの整理が必要ではないか？（40代行政機関）
- ・ 整備水準を守る事（40代その他）
- ・ 国、都道府県において予算をはじめ整備すべき（50代行政機関）
- ・ 浸食崩壊を防止し、環境を保全する事～水対策
- ・ 整備技術、知識だけでなく問題意識の共有（30代その他）
- ・ 登山者の安全と自然保護（60代山岳団体）

■質問⑨ 「大雪山国立公園パークボランティアへのご意見はありますか？」回答数 8

- ・ 活動日の共有だけでなく、協働を進めてはいかがでしょうか？（30代その他）
- ・ あくまでボランティアなので危険な事はお願い出来ない（50代山岳ガイド）
- ・ 荷上げ協力、情報提供を担って欲しい（50代山岳ガイド）
- ・ 社会的なコミュニケーションをお願いしたい。いきなり怒り出す方と何度か遭遇、非常に不愉快。数年前ですが、アクティブレジャーにもコミュニケーションスキルの無い方がいらっしゃいました。（40代山岳ガイド）
- ・ ボランティアメンバーの個人的な意見なども組織としての考え方、行動に反映されていないような気がします。当然受け入れがたい色々な意見もあると思いますが。（70代男性）
- ・ 大雪山国立公園全域を守備範囲として精力的に活動されており、敬意を表します（60代山岳団体）
- ・ 他団体との連携不足ではないでしょうか？（40代その他）
- ・ まだまだ一般利用者の方の認知度が低い。蓄積されているノウハウを公開する機会を持ってほしい（60代山岳団体）

■質問⑩ 「その他意見などがあればご記入ください」回答数 11

- ・ 主な活動エリアの登山道はササ斜面に問題が出てきているように感じています。このような地形の登山道を今後どのように維持していけばよいのか教えてほしいです（40代山岳ガイド）
- ・ 継続的な資金供与、大径木の除去の実施をお願いします（素人には危険、無理）（50代山岳ガイド）
- ・ 協働型とは聞こえは良いが、要は責任分担ですね（責任分担が悪いわけではない）（40代山岳ガイド）
- ・ ここ数年、優先順位の低いと思われる箇所に未熟な施工で多くの予算が投入されているように思えます（40代山岳ガイド）
- ・ 登山道の整備にあたり、その場所、期日、担当者名などその整備に関して支障のない程度に今回の参加団体等に知らせてほしい。その作業内容があまりにもひどいと（景観上や整備作業後の結果）予想される場合には、関連機関に連絡出来る。（70代その他）
- ・ 情報交換会は関係機関・団体の情報共有の場として次年度以降も継続していただきたい
- ・ 協働型維持管理の目指す方向が見えてこない気がします。私の所属する団体は高齢化が進み近い将来地域における協働の一翼を担えなくなる可能性があります（60代山岳団体）
- ・ 将来的には一元的に管理に取り組む団体が必要。
- ・ トイレ、小屋の議論を避けてはならない（40代その他）
- ・ 昔から見ると利用できる登山道が減少している。慰霊碑のある登山道は復活して欲しい。（60代山岳団体）
- ・ 大雪山は広く、問題のある登山道も様々な場所にあります。手を付けるべき場所を調べ、少しずつでも直してもらいたいです。（30代その他）